



「自分を捨て、 自分の十字架を 負うて」

バイブル・チャーチ牧師

保田みゆき

イエスさまが弟子に言われたみことばは、「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい」(マタイ16:24)でした。このみことばは、自意識過剰なわたしたちにとって、いつも心をグサリと刺されるものです。

信仰生活において、一番大事なことは「イエスさまに従う」ことです。それを一番妨げるのが、自分なのです。「人はどう思うだろうか?」「したくない」「できない」と、あとからあとから、いろいろな理由を考え出します。その結果、イエスさまに従うのではなく、自分の考えや感情に従っていることが、いかに多いことでしょうか! 「伝道しましょう」と言われても、「そんな方法では効果がない」と反対したり、「絶えず祈れ」とみことばにあっても、「祈れない」と弁解したりします。

イエスさまに従うことを一番嫌がっているのは、他ならぬ自分であることを発見します。ですから、イエスさまは「わたしについてきた

いと思うなら、自分を捨てて…」と言われたのです。「自分を捨てる」とは、自分の考えや感情以上に、イエスさまを上置くことです。どんな善意の人であっても、自分を捨てなければ、イエスさまに従うことはできません。クリスチャンであっても、自分を捨てなければ、イエスさまに従うことは絶対にできないのです。イエスさまに従わなければ、実を結ぶことはできません。ですから、自分を捨てることは、実を結ぶための必要条件です。

イエスさまご自身も、「神と等しくあることを捨てて」人となり、わたしたちを滅びから救って下さいました。「わたしのために自分の命を失う者は、それを見出すであろう」(マタイ16:25)とは、「イエスさまに従うために、自分を捨てる者は、イエスさまの命にあずかるであろう」という意味です。自分に死に、イエスさまが生きるクリスチャンを目指しましょう。

TPCの活動目的

- (1) 超教派として活動する。
- (2) 毎日、礼拝を捧げ、祈り会を行う。
- (3) 閉塞感のある日本のキリスト教会に元気を与える。
- (4) 伝道、学びなどのために貸室を提供する。